

黒毛和種牛枝肉表面に付着する異物の細菌数と 細菌叢解析

塚本真由美¹⁾ 荻谷俊宏¹⁾ 山崎翔矢¹⁾ 小畑 麗¹⁾ 向島幸司¹⁾
村瀬繁樹¹⁾ 朝倉 宏²⁾ 森田幸雄^{3)†}



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/2/76_e11/_article/-char/ja

- 1) 岐阜県飛騨食肉衛生検査所 (〒 506-0048 高山市前原町 17-1)
- 2) 国立医薬品食品衛生研究所 (〒 210-9501 川崎市川崎区殿町 3-25-26)
- 3) 麻布大学獣医学部 (〒 252-5201 相模原市中央区淵野辺 1-17-71)

(2022年6月3日受付・2022年11月8日受理・2023年2月3日公開)

要 約

ゼロトレランス検証の有用性を確認するため、獣毛 (5)、糞便 (8)、消化管内容物 (6)、レールダスト (5)、フットカッター汚れ (5) が付着した黒毛和種牛枝肉を採材した。獣毛、糞便、消化管内容物間の一般細菌数と腸内細菌科菌群数に有意差がなかった。獣毛 - 糞便 - 消化管内容物検体の一般細菌数はレールダスト - フットカッター汚れ検体のそれと比べ高値であった。消化管内容物は *Firmicutes* 門、獣毛・レールダスト・フットカッター汚れは *Proteobacteria* 門の比率が高く、糞便は *Firmicutes* 門と *Proteobacteria* 門が高い比率の菌叢であった。付着異物ごとに菌叢の違いが確認された。食肉衛生上、糞便及び消化管内容物だけでなく獣毛が付着したと体表面はトリミングすることが必要であると思われた。——キーワード：牛枝肉表面、異物、細菌的汚染、ゼロトレランス検証。

----- 日獣会誌 76, e11~e17 (2023)